

広島商船高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	特別研究Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	19専26027			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 10	
開設学科	海事システム工学専攻			対象学年	専2	
開設期	通年			週時間数	5	
教科書/教材	教科書は使用しない。参考書は各研究室のテーマに関する専門書および研究論文を使用する。					
担当教員	酒池 耕平					
到達目標						
(1) 研究の目的を理解し、心がけておくべき基本的な事項について認識できる。 (2) 研究計画を立案し、安全に研究を実施できる。 (3) 研究の目的・方法・結果・考察・結論等をまとめた論文が作成できる。 (4) 研究成果の資料を作成して発表し、説明することができる。 (5) 自主的に新しい情報や知識を習得し、課題への継続的な取り組みができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	特別研究を遂行するに当たっての心構えについて認識できる。		特別研究を遂行するに当たっての心構えについて概ね認識できる。		特別研究を遂行するに当たっての心構えについて認識できていない。	
評価項目2	各研究室に所有されている機器・器具を用いて、基本的な手順をもとに安全に研究を実施することができる。		各研究室に所有されている機器・器具を用いて、安全に研究を実施することができる。		各研究室に所有されている機器・器具を用いて、安全に研究を実施することができない。	
評価項目3	研究の目的を理解して研究を遂行し、得られた成果を順序立てていねいに整理することができる。		研究の目的を理解して研究を遂行し、得られた成果を整理することができる。		研究の目的を理解せずに研究を遂行したうえに、得られた成果を整理することができない。	
評価項目4	研究の目的・手順・成果を論理的にまとめ、評価・報告することができる。		研究の目的・手順・成果をまとめ、説明することができる。		研究の目的・手順・成果を説明することができない。	
評価項目5	得られた成果を分析し、研究成果の妥当性を評価・考察するとともに、評価結果をもとに研究計画を再構築することができる。		得られた成果を分析し、研究成果の妥当性を評価・考察することができる。		得られた成果から、研究成果の妥当性を評価・考察することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	海事システム工学に関する高度な研究において、研究活動全体を理解し、研究活動に主体的に参加できるように指導する。研究テーマを選択し、研究対象への論理的・実験的アプローチ手法、解析・評価法など一連の研究活動を遂行する。研究活動を通じて、課題を発見してその解決策を計画して実行に移すとともに、その結果を検証する能力を身につけることを目標とする。					
授業の進め方・方法	(1) 特別研究の研究テーマは、特別研究担当教員と学生が相談して決定する。 (2) 研究テーマに関係する専門科目の授業の復習、専門書や研究論文などを読んで理解に努めること。 (3) 研究は、文献収集・実験・データ解析を実施し、研究成果は論文としてまとめること。 (4) 特別研究論文は、所定の様式(目的、実験方法、結果、考察・検討、結論など)に従って作成し、提出すること。 なお特別研究論文は、専攻科修了要件になるので、必ず提出すること。 (5) 特別研究発表会は公開とし、学外者、教員、専攻科生を対象としてプレゼンテーションを行う。その際、アブストラクトをA4用紙1枚以内にまとめて提出すること。					
注意点	(1) 特別研究の研究テーマは、特別研究担当教員と学生が相談して決定する。 (2) 研究テーマに関係する専門科目の授業の復習、専門書や研究論文などを読んで理解に努めること。 (3) 研究は、文献収集・実験・データ解析を実施し、研究成果は論文としてまとめること。 (4) 特別研究発表会は公開とし、学外者、教員、専攻科生を対象としてプレゼンテーションを行う。その際、アブストラクトをA4用紙1・2枚以内にまとめて提出すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	応用研究の復習		特別研究Ⅰの成果を踏まえて研究テーマを設定する。	
		2週	課題の検討と設定		論文検索や特許検索などを通じて研究課題に対する既往研究のサーベイや関連する分野の状況を把握する。	
		3週	課題の検討と設定		研究テーマを認識する。	
		4週	研究手法・解析法の検討		研究テーマに対して、研究方法・分析方法が適切であるかの検討を行う。	
		5週	研究手法・解析法の検討		研究テーマに対して、研究方法・分析方法が適切であるかの検討を行う。	
		6週	研究スケジュールの策定		研究のスケジュールを策定し、それに従って研究を実施する。	
		7週	研究の実施		スケジュールに従って研究を実施する。	
		8週	研究の実施		スケジュールに従って研究を実施する。	
	2ndQ	9週	研究の実施		スケジュールに従って研究を実施する。	
		10週	研究の実施		スケジュールに従って研究を実施する。	
		11週	研究の実施		スケジュールに従って研究を実施する。	
		12週	研究成果の検討と再実施		スケジュールに従って研究を実施する。	
		13週	研究成果の検討と再実施		スケジュールに従って研究を実施する。	

後期		14週	学位授与機構提出用計画書の作成	スケジュールに従って研究を実施する。
		15週	学位授与機構提出用計画書の作成	スケジュールに従って研究を実施する。
		16週		
	3rdQ	1週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		2週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		3週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		4週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		5週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		6週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		7週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		8週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
	4thQ	9週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		10週	研究の実施	スケジュールに従って研究を実施する。
		11週	論文の作成	研究成果をまとめて、執筆要綱に従って論文を作成することができる。
		12週	論文の作成	
		13週	特別研究発表会	特別研究発表会において研究テーマについて、視聴者に理解できるようにプレゼンテーションできる。
		14週	論文の修正	発表会等における指摘事項を踏まえて、論文の修正を行い特別研究論文を完成させる。
		15週	学位授与機構提出用の成果報告書の作成	学位申請用の成果報告書を作成する。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	55	15	100
基礎的能力	0	10	0	0	15	5	30
専門的能力	0	10	0	0	20	5	35
分野横断的能力	0	10	0	0	20	5	35